

○令和2年度決算の概要

(1) 収支計算書の状況

① 資金収支計算書

資金収支計算書は、当年度の学園の全ての資金の動きを示したものです。

資金収入の合計は予算と比較して210百万円上回り13,331百万円となりました。一方、人件費・教育研究経費・管理経費などの資金支出は、予算を112百万円下回り10,528百万円となりました。なお、予備費のうち9百万円を人件費支出へ、30百万円を教育研究経費支出へ、20百万円を施設関係支出の予算に充当しています。その結果、翌年度への繰越支払資金は、予算を323百万円上回り2,802百万円となりました。

② 活動区分資金収支計算書

活動区分資金収支計算書は、当年度の資金の動きを3つの活動に分類し、活動区分ごとに資金の流れを示したものです。

「教育活動」では資金収入が9,434百万円、資金支出が8,757百万円、調整勘定等が△62百万円となり資金収支差額が614百万円になりました。「施設整備等活動」では資金収入が513百万円、資金支出が1,357百万円、調整勘定等が203百万円となり資金収支差額が△640百万円になりました。「その他の活動」では資金収入が422百万円、資金支出が256百万円となり資金収支差額が166百万円になりました。その結果、当年度の支払資金が140百万円増加し、翌年度繰越支払資金は2,802百万円となりました。

③ 事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動ごとの収入および支出、基本金組入後の収支の均衡状態を明らかにすることにより、学園の当年度における経営状態を示したものです。

「教育活動収支」では収支差額が予算を201百万円上回り、△799百万円となりました。一方、「教育活動外収支」は収支差額が予算を6百万円上回り、218百万円となりました。なお、予備費のうち9百万円を人件費へ、30百万円を教育研究経費の予算に充当しています。その結果、経常収支差額は予算を207百万円上回り、△581百万円となりました。

「特別収支」では収支差額が予算を9百万円上回り55百万円となりました。なお、予備費のうち6百万円を資産処分差額の予算に充当しています。これらの結果、基本金組入前の当年度収支差額が△525百万円となり、基本金組入額275百万円を計上後の当年度収支差額は△801百万円となりました。

また、当年度収支差額△801百万円に前年度から繰越された収支差額△18,080百万円、基本金取崩額10百万円を加算した結果、翌年度繰越収支差額は18,870百万円の支出超過となりました。

(2) 貸借対照表の状況

貸借対照表は、当年度末における学園の財政状態を示したものです。

「資産の部合計」は78,050百万円で、前年度末に比較し778百万円の減少となりました。有形固定資産が1,077百万円減少、特定資産が420百万円増加、流動資産が121百万円減少したことによるものです。「負債の部合計」は3,724百万円で、前年度末に比較し253百万円の減少となりました。「純資産の部合計」は基本金が264百万円増加、繰越収支差額が790百万円減少し、前年度末に比較し525百万円の減少となりました。その結果、翌年度繰越収支差額が18,870百万円の支出超過となりました。